

みんきょう便り 第14号

平成27年12月18日発行

みんきょう・・・三島町民生児童委員協議会の略です

三島町民生児童委員協議会
〈広報委員〉

北 館 長 一
五十嵐 和 吉
栗 城 和 代

事務局/三島町社会福祉協議会

□■□ みんきょう活動日記 □■□

3町村(三島町・金山町・昭和村) 民生児童委員合同研修会 in三島

～安心できる暮らしへのサポート～

去る9月18日、山びこを会場に37名の民生・児童委員が出席のもと開催されました。

この研修会は、共通の課題を抱える三町村の委員が一堂に会し、相互の交流と地域福祉活動の一層の推進を図るものです。

研修内容は、今年施行された「生活困窮者自立支援法」についてです。特に民生児童委員活動とも深く関係することから、法の目的、制度内容等についての理解を深めました。



→ 三町村の民生・児童委員が相互に交流を図りながら、生活に話し合いがもたれました。発行

又、近年では、うまく周囲や家族との関わりやコミュニケーションが取れず、地域社会から孤立し、生きづらさを抱え込む住民が増えています。さらに、そのような人は地域の相談相手である民生委員・児童委員に対しても同様であり、そのような人の対応に悩む事例が研修等、様々な場面でとりあげられるようになってきています。

しかしながら、民生委員・児童委員も地域住民のひとりであること。積極的なコミュニケーションを行うことが重要であること。など、再確認できた研修会となりました。

三島町民生児童委員協議会 視察研修

〔報告者 小柴 信子(西方地区担当)〕

10月27.28日の両日、1泊2日で宮城県方面に行きました。最大の目的は、東日本大震災復興状況の視察であり、震災より4年半が経過した今、どのように復興されているのか好奇心そのものでした。

出発してから2時間程過ぎに国道288号線に入り、都路村→大熊町→富岡町と進み、車中から見る光景は、背高泡立草とすすきの中から屋根がやっと見える程度の家々があり、人々が住んでいたとは想像もつかない荒れ放題の状況でした。

さらに車が進んで行くと、ところどころに放射能スクリーニング検査所があり、通行止めのバリケード、人っ子一人いない街並み、どれもこれも悲惨なものばかりで全員が驚きの声をあげていました。

又、鹿島の道の駅では地元の方から話を聞くことができましたが、4年以上経っても人々の心は沈んでいるんだと訴えていました。

その後、南相馬市、宮城県山元町、亘理町と進んで行きましたが、この辺は新しい家々や中間貯蔵施設が建設中でした。震災と目に見えない放射能との戦いはまだまだ続いていくのかと思うと胸に熱いものがこみ上げ、やりきれない思いでいっぱいになったのは私ばかりではないと思います。気持ちを切り替えながら一路、宮城県秋保に向かい、懇親会を行いました。偶然にも群馬県桐生市の民生児童委員の方々とも交流することができました。翌日は、今年の夏にオープンしたうみの杜水族館等を見学し、帰路に着きました。

今回の研修は、全委員15名が参加できたことに大変意義があり、今後の活動の糧になったことは間違いありません。

みんきょう便り①

